

すみだ

議会だより



No. 183

令和5年
10月27日

- 9月議会のあらし
住田中学校 来春開校へ ③
- 令和4年度決算
どう使われた52億円(一般会計) ④
- 町民生活支援などで論戦
(4人の議員が一般質問) ⑧
- 5年ぶりの開催ふるさと住田会 ⑭

「金メダルをガブリ!!!」

《世田米保育園》関連記事16P

令和4年度 決算議会

第29回定例会
(9月議会)
あらまし



イコウェルすみた

9月定例会は、8月29日から9月8日までの11日間の会期で開かれ、一般質問には4議員が登壇。住田高校の魅力化や補聴器購入の助成などについて議論が交わされました。本会議では、町条例の一部改正や令和5年度補正予算を審議し、原案のとおり可決。人事案件では、7件の選任や推薦に同意しました。

令和4年度一般会計及び3特別会計の歳入歳出決算並びに2事業会計決算については、決算審査特別委員会を設置し、集中審査しました。(関連記事4～7ページ)

町民税・国保税・上下水道料

コンビニ収納導入へ

一般会計補正予算

令和5年度一般会計補正予算に「コンビニ収納導入手数料」44万円、「コンビニ収納用システム改修委託料」359万円を計上。

問 コンビニ収納を可能とする目的や背景は。

答 近隣自治体において、納ができるという状況を鑑みて、本町でも収納環境を整備したい。

問 収納の対象税目と収納可能店舗は。

答 個人住民税、固定資産税、軽自動車

税、国民健康保険税をはじめ、水道料、下水道料、町営住宅家賃などの口座振替が可能な各種料金を対象としたい。ほとんどのコンビニで収納が可能となり、スマートフォンによる決済も可能となる。



△年中無休のコンビニでの収納が可能となり、納付者の利便性向上が図られる

住田中学校 来春開校へ

— 校歌・校章・制服が決定 —



△ 住田中学校の設置に伴い、制服や運動着、通学かばんなどが新調された

世田米中学校と有住中学校の統合は、令和3年度より、教育審議会や学校統合推進協議会、保護者説明会、住民説明会を開催して民意の反映に努め、合意形成を図ってきた。協議の結果、令和6年4月より、2校を廃止し、新たな学校を定める方向性に至った。

新たに設置する校名を「住田町立住田中学校」とし、来年4月の開校に向けて、校歌や校章、制服など所要の整備を図る。

問 各校ではスローガンとして世田米中では「共に学び共に育つ」、有住中では「創れ我が手で我が郷土」がある。新中学校における校風や生徒が目指すべき姿をどのように考えているか。

答 両校がこれまで培ってきた校風や成果などに配慮しながら、生徒や保護者、地域にとつて希望あふれる学校となるよう関係各位の方々と連携しながら、取り組んでいきたい。

人事案件に同意

【町固定資産評価審査委員の選任】

千葉 和三氏 (68才)
世田米字松ヶ平 (再任)

小野 ちか子氏 (73才)
上有住字恵蘇 (再任)

【教育委員の任命】

菊田 忠一氏 (66才)
下有住字奥新切 (新任)

【人権擁護委員の推薦】

澤田 幸枝氏 (73才)
上有住字西野 (再任)

菅野 義光氏 (70才)
世田米字窪田 (再任)

高橋 聖子氏 (63才)
下有住字十文字 (再任)

伊藤 豊彦氏 (63才)
世田米字火石 (新任)

賛否が分かれた議案 採決状況

○:賛成 x:反対 欠:欠席
議長は採決に加わりません

議案	水野 正勝	荻原 勝	佐々木初雄	佐々木信一	佐々木春一	村上 薫	阿部 祐一	林崎 幸正	菊池 孝	高橋 靖	菅野 浩正	瀧本 正徳	議決結果
議案第18号 住田町固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めること	○	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○	—	可決

どう使われた52億円（一般会計）

令和4年度一般会計決算は、歳入52億7577万円で前年度比4億6970万円の減、歳出51億8774万円で前年度比3億3133万円の減となりました。これは、畜産競争力強化整備の事業化、新型コロナウイルス感染症関連交付金の減額などによるものです。

移住定住積極的に

歳出の主なものは、総務費が13億2841万円、民生費が11億7275万円、公債費が6億7096万円、教育費が4億4221万円、衛生費が4億1004万円などです。

総務費の中には、仕事・学びの場創出事業の1億1458万円や空き家活用住宅整備事業の1348万円など移住定住への積極的な取り組みが入っています。

財政は健全に推移

財政の面では、実質赤字比率、連結実質赤字比率、将来負担比率が生じておらず、地方債返済割合である実質公債比率も7.8%と早期健全化基準の25%を大きく下回っているなど4比率全てで高い健全性を保っています。

令和4年度各会計決算

会計区分		収入済額	支出済額	差引額
一般会計		52億7577万円	51億8774万円	8803万円
特別会計	国民健康保険	7億7339万円	6億9888万円	7451万円
	介護保険	10億356万円	9億6294万円	4062万円
	後期高齢者医療	7724万円	7660万円	64万円
	小計	18億5419万円	17億3842万円	1億1577万円
簡易水道事業会計		2億3735万円	2億2526万円	1209万円
下水道事業会計		1億6712万円	1億7045万円	△333万円
合計		75億3443万円	73億2187万円	2億1256万円

令和4年度決算に基づく健全化判断比率

	令和4年度決算	早期健全化基準
実質赤字比率	— %	15 %
連結実質赤字比率	— %	20 %
実質公債費比率	7.8 %	25 %
将来負担比率	— %	300 %

決算ピックアップ



決算審査意見書

代表監査委員 紺野 仁

人口減少に伴い、町有施設や町有地の利用度低下や遊休化が懸念される。効果的な再利用が見込めない場合には、民間活用や売却の検討も必要となる。

公共施設や上・下水道・地域情報通信基盤施設などのインフラ施設は、住民の福祉に不可欠であるため、維持管理や更新が必要であり、その財源を確保するには、基金の整備運用などの検討も必要である。適切な財政計画に沿った財政運営に努められたい。

自治体DXも、機器・システムの維持管理や更新があり、基金の整備運用などの検討が必要である。

職員の働き方では、ワーク・ライフ・バランスが推奨されている。職場全体で意識改革に努められたい。



令和4年度 決算審査

決算審査特別委員会（高橋靖委員長）は、9月4日から6日までの3日間にわたり開かれ、一般会計、3特別会計、2事業会計の決算について審議。すべて原案のとおり認定されました。

ここでは審議した多くの質問項目の中から、各委員1項目を掲載し、お知らせします。

決算審査特別委員会

すべての 決算を認定

社会動向にも適切対応

委員長報告

計画に沿い予算執行

決算審査特別委員会

委員長 高橋 靖

「医・食・住」を掲げた総合計画の3年目であり、計画に沿った予算が適切に執行されたか。行政効果が現れたか。町民福祉の向上が図られたか。を観点に質疑が行われた。

地域情報通信基盤整備、仕事・学びの場創出、障がい者自立支援、交通対策、子育て世帯への支援、住田高校魅力化などの事業が推進されるとともに、新型コロナウイルス感染症対策など、社会動向に対応した事業も実施された。多くの質疑と意見が出され、審査の結果いずれの決算も認定すべきと決定した。

消防団



水野正勝委員

問 消防団員報酬や手当が口座振替となった。団員の受け止めや今後の待遇改善はどうか。

答 口座振替導入の件は、一年間にわたり消防団と意見交換し、最終的に納得して頂いたと考えている。団員の待遇改善面では、消防団行事の改善などについて協議していきたい。

コミュニティバス



荻原 勝委員

問 コミュニティバス運行事業は1960万円。3路線の利用運賃総額は。高齢者の利用どう考える。

答 運賃収入は378万4625円。運賃は、利用者へのサービスの応益として頂いている。買い物などに不便をきたしている高齢者などへの支援は、今後検討していきたい。

鳥獣被害



佐々木信一委員

問 鳥獣被害防止にどう取り組んでいるか。シカはもろろん、イノシシやサルへの対処はどうか。

答 ニホンジカの有害捕獲を推進している。1頭あたり8千円が交付されている。イノシシも有害捕獲の対象であり、5年度より報償費を増額する。サルは有害捕獲の対象外である。

賛成討論

住民要求に対応

佐々木春一 委員

新型コロナウイルス感染症が流行と鎮静化を繰り返すなか、ワクチン接種や訪問看護、福祉事業を支援。物価高に対応した生活支援。子ども医療費無償化の高校生までの拡大や保育料の無料化など子育て支援を充実。住民の要望に応え、住民参加による地域にあった事業やサービスに取り組んだことを評価する。

生かされたか 町民の暮らし・仕事に

コロナ禍・物価高での予算執行

決算審査特別委員会



消防団による演習



観光協会による夏祭り

奨学金



佐々木春一委員

問 奨学金の返還は、町内に居住し、仕事についてた場合に免除する制度があるが実績は。貸付型から給付型への移行は。

答 4年度の返済免除対象者は1名。貸付型から給付型を導入する自治体は増加傾向にあるが、給付要件など課題があることから慎重に考えていきたい。

観光協会



村上 薫委員

問 観光協会は実質1人体制である。地域おこし協力隊だけでなく、広く募集したらどうか。

答 1人の職員では大変であるという認識はある。現在、地域おこし協力隊の公募による補充も目指しているが、観光協会と情報交換しながら体制強化に努めていきたい。

債権管理



阿部祐一委員

問 過年度分の滞納金などへの不納欠損の考え方は。

答 執行停止してから一定の年数が経過したものは、債権管理条例に基づいて不納欠損をしている。実態が追い付いていない部分は、税・税外も含め実態調査を徹底していきたい。

賛否が分かれた議案 採決状況

○は賛成 ×は反対

議案	水野正勝	荻原勝	佐々木初雄	佐々木信一	佐々木春一	村上薫	阿部祐一	林崎幸正	菊池孝	高橋靖	菅野浩正	瀧本正徳	議決結果
決算審査特別委員会	委員長（高橋靖）議長（瀧本正徳）は採決に加わりません												
認定第1号 令和4年度 住田町一般会計歳入歳出決算の決算について	○	○	○	×	○	○	○	○	○	—	○	—	認定
本会議	議長（瀧本正徳）は採決に加わりません												
認定第1号 令和4年度 住田町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	—	可決

一般質問

町の考えを問う

4人の議員が質問

町民生活応援・ILC 仕事場対策などで論戦

ページ	質問者 (登壇順)	質問項目
9	おぎわら 荻原 まさる 勝	①住田高校の入学者数と魅力化 ②学校プールの利用
10	ささきはるかぜ 佐々木春一	①町民生活応援と国民健康保険事業の対応 ②高齢者の補聴器購入費の助成 ③建設・建築事業者の支援
11	ささきしんいち 佐々木信一	①人口減少と仕事場対策
12	むらかみ 村上 かおる 薫	①国際リニアコライダー（ILC） ②三陸ジオパークけせん ③町の情報受・発信の在り方 ④職員の副業制度創設

一般質問は、議員が町の行財政全般にわたり、
執行状況や将来に対する方針を聞き、疑問点をた
だします。質問方法は、1回目は一括して質問し
ますが、2回目以降は1問ずつ質問する1問1答方式
を採用しています。持ち時間は、答弁を含めて60分
です。

全文記録（議事録）は、役場庁舎2階の総務課と町のホームページで閲覧できます。
（QRコードで議会ホームページへ直接進むことができます）

▼QRコード



問 連続20人割れの対応は

答 分析と改善が必要

問 高校再編基準である2年連続の入学人数20人以下が現実となったが。

答 教育長

20年以上、住田高校の教育振興運動への支援や魅力化構想の実現に取り組んできたが、2年連続で21名以上の入学者を確保できなかった。分析と改善が必要と考えている。募集継続の措置は、これまでの本町の取り組みが、県教育委員会から一定の評価を得たためと考える。

問 住高入学人数が目標に達しなかった要因は。

答 教育長

生徒数の減少により、気仙管内の志願者数(342人)が募集定員(520人)を大幅に下回り、比較的容易に距離の希望高校に入学できる状況になった。本町は、近隣市に複数の通学可能な高校が存在し、中学校卒業生の進学先が分散する傾向にあるなどの要因と分析している。

問 次年度に向け、総括や要因分析を町民に説明する必要があるので。

答 教育長

住田高校教育振興会及び住田高校魅力化推進会議で委員の方々に説明し、協議していただき、情報共有と検討を行っている。今後は、町民の皆様にご意見をオープン化し、会議の内容に関して住田広報など様々な媒体及び機会を通じて紹介していきたいと考えている。



おぎわら 荻原 まさる 議員

時代のニーズに合わせた住高魅力化を

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 健康づくりにプールを

答 建設費や維持費が課題

問 プール熱中症から児童を守る配慮のため、プールの授業などが中止になるケースがあった。中止基準はどのようなものか。今季の中止状況はどうだったのか。

答 教育長

本町のプール授業などの実施条件は、気温が20℃以上かつ水温が22℃以上とされているが、気温と水温の合計温度が65℃以上の場合には実施しないこととなっている。今季は午後において5日間、中止の事例があった。

問 全町民が利用できる健康づくりの場としてプールを整備してはどうか。

答 教育長

水泳は、子どもから高齢者まで対応できるスポーツである。一方プールは、建設費や維持管理費が高額となる。周辺自治体に整備されている。整備の要望が寄せられていないなどのことがある。現状でのプールの整備は考えていないが、今後の役場周辺や学校統合の施設整備の中で、慎重に考えていきたい。



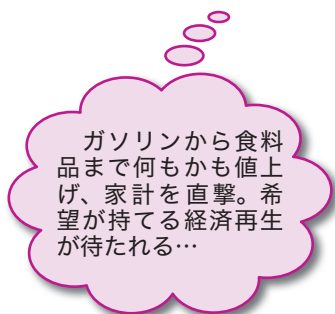
△ 水泳の授業で元気に泳ぐ子どもたち

問 国保税の緊急引下げを



さ さ き はるかず
佐々木春一 議員

町の考えを問う



議員のつぶやき

答 安定した財政運営を図る

問 国保加入世帯の多くは農林業、自営業者や年金生活者で、電気料・燃油などの物価高騰に最も影響を受けている。国保税を緊急に引き下げるべきと考えるが。

答 町長 平成30年度から保険料率は据え置きしており、県から示されている標準保険料率を参考に税率を決定しているが、実際は算定される保険料より低く設定している。

現在、長期的に安定した財政運営を図っているところで、緊急に引き下げるのは適当でないと考えているが、今後の景気や国の動向を注視し、国保の

被保険者の現状を的確に捉えていきたい。

問 国保税には、応益負担という考え方により被保険者の人数によって課税される均等割があり、子育て世帯にとっては、子どもが増えると税負担が増える。子どもの均等割を減免すべきと思うが。

答 町長 令和4年度から未就学



△マイナンバーカードに一本化される「健康保険証」。保険証の存続も簡素で確実と思われるが

児の均等割を5割軽減している。子どもの均等割の免除・減免は、国の基準に従って実施していく。

問 来年(2024年)秋に健康保険証を廃止しマイナンバーカードに一本化する「マイナ保険証」化方針を打ち出している。健康保険証が廃止されると公的保険診療から遠ざけられることにならないか。

答 町長 「マイナ保険証」を持たない人全員に、保険証に代わる「資格確認証」を一律に交付するとしている。これまで通り医療を受けることに支障はない。不安払拭のため情報収集、発信に努めていく。

問 補聴器購入に助成すべき

答 助成制度は総合的に判断

問 高齢者の加齢による難聴や聴力低下は、安心して生活していく上で大きな課題の一つである。補聴器の購入費は高額で負担が大きいため、助成制度が必要と思うが。

答 町長 難聴は、本人だけではな

く、家族や職場、地域のコミュニティなど社会との関係で重要な問題である。補聴器は大変高額なものとして認識しているが、補聴器のみを特化して助成することへの是非もあり、実施は総合的に判断をしたい。

問 防災・減災の仕事を起こせ

答 事業化に向け取り組み

問 建設事業者から仕事が増え、見通しが立たないとの声があることから、防災・減災に対応した計画により、流域治水や土砂災害を防止・軽減する事業計画を示すべきと思うが。

答 町長 県が実施する治水、治山事業の事業化に向けた取り組みを行っている。事業者が地域経済を支え活躍できるように情報交換など連携を深めていきたい。

問 人口減少の現状は

答 若い世代の流出が課題

問 若者が首都圏に集中しており、本町でも人口減少が進んでいるが、現状をどう捉えているのか。

答 町長

総務省の2022年の住民基本台帳人口移動報告によると、首都圏に転入者が転出者を上回り、東京都では3年ぶりに拡大し、前年と比較して7倍に増えた。雇用の選択が少ない地方では、22道県で流出が拡大。本町における15才から29才まで

の社会増減は、過去3年

間で104人が減少した。

町では目標人口を

「2040年に4000

人」としているが、設定

した目標を大きく下回っ

ており、若い世代の流出

が重要な問題と捉えてい

る。

問 人口減少に歯止めを

かけるには、若者の働く

場所の確保と地元への定

着が不可欠であると考え

るがどうか。

答 町長

若者の働く場の確保は、

人口流出を防ぐ手段とし

て有効と捉えている。職

場定着を促進する助成制

度を整備し、誘致企業の

支援、産業振興と雇用対

策、所得向上に取り組ん

できた。県企業誘致推進

委員会、ハローワーク、

気仙地区雇用開発協会な

どとの情報連携を図り、

町内事業所への人材確保、

若者の地元定着に取り組

んでいきたい。



さ さ き しんいち
佐々木信一 議員

人口減少が進んで
いる。若者の所得向
上が望まれる

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 新卒支援で人口対策を

答 雇用対策や企業誘致継続

問 町では、新卒者の雇

用奨励や新規起業支援な

どを行っているが、その

効果をどう捉えているか。

答 町長

若者の働く場の確保や

職場定着を促進する助成

制度として、企業設置奨

励金や、若年者職場定着

奨励金制度を整備し、支

援することで地元定着に

努めてきた。新たに起業

する個人などに対し、起

業奨励交付要綱を平成28

年度に整備し、起業家へ

の支援を行ってきたこと

で一定の効果があつたも

のと捉えている。

問 新卒者や町内事業者

への支援を今後の人口減

少対策にどう繋げていく

考えか。

答 町長

これまで行ってきた雇

用対策、企業誘致活動な

どを継続して行なうこと

で、職業の選択肢を増加

させ、定住率の向上や地

域産業の維持、活性化を

図っていきたい。その結

果として、人口減少対策

にも繋がっていくよう努

めたいと考えている。



△ 店頭やインターネット販売を中心に展開をしている起業5年目の事業所

問 職員の副業制度創設は

答 兼業許可基準を明確化



むらかみ 村上 かのる 議員

町の考えを問う

問 国際リニアコライダー（ILC）を実現するために何が必要と考えているか。岩手・東北で

答 町長 多様な働き方や人口減少に伴う人材の希少化から、地方公務員も地域社会のコーディネーターなどとして、公務以外でも活動することが期待されている。職員の兼業許可基準を明確化し、本年7月職員へ通知した。

問 総務省は各自治体に対し、職員の副業・兼業許可基準の公表を推奨している。町でも許可基準を設け副業制度を創設すべきではないか。

問 町長は、今年度「三陸ジオパークけせん地域協議会」の会長に就任した。産金に係る日本遺産「みちのくGOLD浪漫」

答 町長 本年2月岩手県南・宮城県北の建設候補地周辺自治体の長などが中心となって「ILC実現建設地域期成同盟会」が設立された。超党派国会議員連盟などと連携し、一丸となって取り組んでいく。

問 世界に通じる有名人、大谷翔平さんや羽生結弦さんから「世の中変わる。ぜひ東北でやりたい」という強烈なメッセージを出してもらっては如何か。



「職員の副業制度」...山梨県ではサクランボの収穫に限定している

議員のつぶやき



△ 大船渡市のLINEは、市民以外にも様々な情報が得られる

問 ※日本遺産「みちのくGOLD浪漫」平泉町・陸前高田市などが文化庁「日本遺産」の認定を受けている。

答 町長 日本遺産「みちのくGOLD浪漫」との観光連携方法は多種多様にあると考えるが、現時点では具体的な連携事業は計画されていない。しかし、観光産業振興は、広域的視野で取り組んでいく。

問 インターネットの普及で情報の受・発信が多様化し、情報通信技術（ICT）のフル活用が求められているがどうか。

答 町長

- ① 発信について
- ② LINEによる発信
- ③ ユーチューブによる随時視聴を可能にすること
- ④ 町三役週間予定表をHP上で公開すること

問 ICTフル活用を

答 三役予定HP公開

問 (2) 受信について

① 町案内文書に担当者のメールアドレス表記を周知・徹底すること

答 町長 町として、住民サービスの向上や行政運営の効率化を加速させるため「町DX推進計画アクションプラン」を策定し進めている。(1)の発信①LINEなどの活用は、新たなアプリケーションの導入も検討する②ユーチューブ活用は、住田TVと協議し、活用を検討していく。③三役の週間予定表HP上公開は、公表に向けて検討する。(2)の受信①メールアドレス表記は、更に周知、徹底する。

活躍する人材育成を

総務教民常任委員会

調査事項

教育振興

調査経緯

全国的に人口減少が予測よりも早まっており、本町においても児童、生徒が減少し、県立高校の再編計画や中学校の統合など厳しい状況に直面している。未来を担う子どもたちを取り巻く教育環境の現状と課題を確認すべく、調査・研究を実施。

調査・研修内容

① 住田高校存続に向けた

魅力化の推進について
住高ハウス○○を視察し、教育委員会、教育コーディネーターより状況説明を受ける。

② 地域創造学について

教育委員会より、地域創造学の取り組み状況の説明を受ける。

③ 教育環境整備について

教育委員会より、小・中学校の在り方に係る教育

審議会の内容について説明を受ける。

調査結果と意見

1、住田高校の存続について

2年連続で定数の半分に満たない志願者数となり、統合が検討されたが、令和6年度の募集が認められたことは、これまでの高校の魅力化に取り組んできた成果であると捉える。隣接市や地域未来留学などへのPR活動に

加えて、地元生徒が進学したくなるような魅力推進や環境づくりにも注力していくべき。

2、地域創造学について

一般科目に必要となる時間の削減などの影響がないか心配もある。しかしながら、未来を見据えた人材の育成や生徒が郷土に誇りをもつて住田で活躍できるよう内容をさらに深め、取り組みを進めてほしい。

3、教育環境の整備について

学校統合による学習や生活環境などの変化で様々な課題も想定される。適切な環境の整備と対応を望む。

委員長 高橋 靖

副委員長 荻原 勝

委員 菅野 浩正

菊池 孝

村上 薫

佐々木信一

産業経済常任委員会

調査事項

農林業振興

調査経緯

本町の基幹産業である農林業は、人口減少や高齢化に伴う担い手不足が課題となっている。町内における農林生産物の循環を図り、地場産業の持続的な成長を促していかねばならないことから、農林業の現状や課題に係る調査・研究を実施。

林地残材活用に期待

調査対象

- 1、農業、畜産、林業など地場産業の振興状況
- 2、川上から川下までの木材流通体系の状況
- 3、町有林・民有林の経営管理状況
- 4、伐採から搬出までの効果的な作業体系

実施した調査内容

- ① 林政課との意見交換会
- ② けせんプレカット事業協同組合の視察調査
- ③ 気仙地方森林組合との

意見交換会

- ④ (株)チキンファーム住田と(有)気仙環境保全の視察調査
- ⑤ (有)グリーン総業(一関市)の視察調査

調査結果と意見

- 1、耕畜連携による持続的農業の推進
有機肥料を有効活用していくため、栽培施用基準や有機農法への適合性などの検証を進めるべき。
- 2、伐採から搬出・植林までの効果的な作業体系

での効果的な作業体系

- ① 伐採と植栽作業が別事業者で行われていることから、一体的な作業体系を整備するべき。
- ② 林地残材の有効活用に向けた取り組みを具現化すること。

3、町森林経営管理計画の推進

森林所有者、森林組合、素材生産業者が一体となった持続可能な森林経営管理を推進すべき。

4、町産材を活用した新たな産業の創出

CLT工場の誘致やセロロースナノファイバーの研究など町産材の付加価値を高める産業育成に努めること。

委員長 阿部 祐一

副委員長 水野 正勝

委員 林崎 幸正

佐々木春一

佐々木初雄

オンザバー 瀧本 正徳

町政調査会 活動報告 (10/6~7)

町政調査会では、10月7日に東京の「ホテルラングウッド」で開催された第19回ふるさと住田会の集いに議員全員で出席。2年に1度開催されてきたふるさと住田会ですが、コロナ禍の影響を受け、約5年ぶりとなる開催となりました。会場には、関東圏在住の本町出身者が約160名集い、高瀬鹿踊りや早瀬ひとみさんの歌謡ショーで大いに盛り上がりました。最後には、恒例の住田音頭で大輪の輪を描き、万歳三唱でお開きとなりました。

町政調査会

5年ぶりの開催

ふるさと住田会



△ 住田会役員による「ふるさと」の合唱



△ 佐々木議長による祝辞



▷ 月山芸能保存会による「行山流高瀬獅子踊り」



△ 再会を誓い、参加者全員で万歳三唱



△ 早瀬ひとみさん



故郷に想いをよせて～



すずき ちよこ
鈴木 千代子 さん (69才)
下有住字新切 出身

当日の参加でしたが、思わぬ出会いがありました。なんと故郷の実家の今は無くなってしまった本家の同級生と35年ぶりに再会でき、とても感激しました。誘っていただきありがたかったです。



おおわだ たくろう
大和田 卓郎 さん (84才)
世田米字田谷 出身

首都圏を中心に左官業を営んでいます。昨年は、若い衆を連れて里帰りし、実家の修繕をしました。ふるさと住田会には最初の頃からほとんど参加しています。今回は、盛況だったと思います。



10月6日には、議員研修として、豊洲市場を訪問。本町の青果も多く取り扱っている「東京シティ青果株」を視察研修しました。豊洲市場の特徴や強み、仲卸業界の現状や今後の見通しをはじめ、生産者に何が求められているのかを学びました。今後、町の産業振興施策に生かしていきます。

日本の台所 とよす 豊洲市場視察

適正管理の閉鎖型施設



△ 見学ブースより青果市場を一望



△ 模型により施設全容の説明を受ける

▷ 商売繁盛の願いが込められた縁起物として親しまれている「宝船」



△ 県産野菜の出荷状況や買い手の視点を質問



パート
15

わたしの未来

住田町の子どもたちが
将来の夢を語る
コーナーです。
自薦・他薦も大歓迎。申し
込みをお待ちしています。

将来は大工さんに

僕は、テニスをやっています。まだ上手
ではないですが、この一年間で試合の予選
を通るようにがんばりたいです。将来の夢
は**大工さん**です。テニスを続けて大工に
なる体力をつけたいです。岩手の人に自分
が建てた家に住んでほしいです。



有住小学校6年
ささき りく
佐々木 莉玖
(上有住字山脈地)

皆が感動する曲を

私の将来の夢は、**ボーカロイドプロ
デューサー**になることです。私はボカロ
が好きで、ボカロを聞いているうちに、皆
が何回も聞いていたいと思えるいい曲を作
りたいと思うようになりました。なので、
ピアノを練習して音感をつけられるようが
んばっていきます。



世田米小学校6年
こんの めめ
紺野 明芽
(世田米字世田米駅)

編集後記

広報編集常任委員会
副委員長 荻原 勝

▼9月には、任期最後の決算議会、4年に1度の町
議会議員選挙があり、10月2日からは、女性の新人
議員が加わった議会新体制となりました▼10月7日
には都内で「ふるさと住田会」があり、12名の議員
全員が出席しました。出席者160名。交流人口の大き
な核として発展していくことを期待します。▼今年
2回目の「住民と議員との懇談会」を11月下旬より
開催予定です。ご参加お願いいたします。

表紙の写真



世田米保育園

まだ暑さが残る10月7日。世田米保育園では運動会
が開かれていました。お父さんやお母さん、沢山の人が
見守る中、かけっこやお遊戯、趣向を凝らしたチャン
スレースなど、会場からは大きな声援が送られていま
した。子どもたちは、笑顔いっぱい、時には真剣に運
動会を楽しんでいました。閉会式では、大きな金メダ
ルをもらい、オリンピックさながら、ガブリとかじるお
茶目なシーンもあり、笑顔あふれる運動会となりました。

広報編集常任委員会

発行責任者



議長	佐々木 春 一
委員長	水野 正 勝
副委員長	荻原 祐 一
委員	阿部 上 薫
	村本 正 徳
	瀧野 千 津
	金野 千 津